書塾の仲間たち

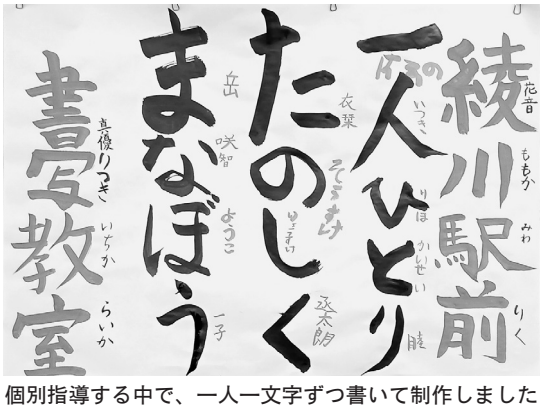
第 283回

綾川駅前書写教室　（香川県綾歌郡）



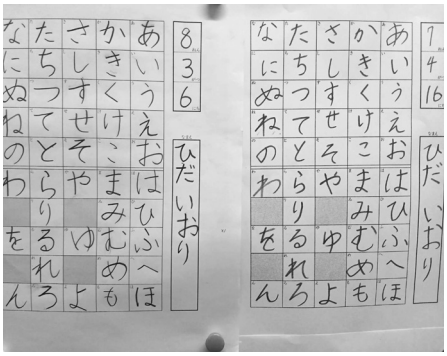






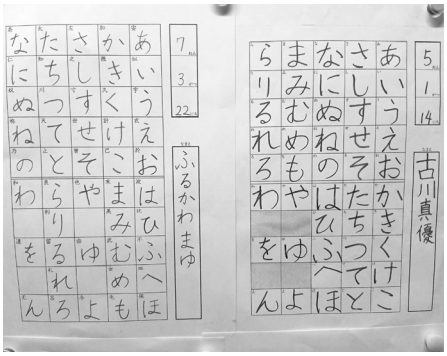


個別指導する中で、一人一文字ずつ書いて制作しました





書塾の仲間と年に一度、お楽しみ会を開催



●書塾からひとこと●

二〇二一年三月、「子どもに字を教えてほしい」という一本の電話をきっかけに、私は自宅に書写教室を開きました。

子どもには集中して取り組んでもらいたいと考えて、教室は完全個別の予約制とし、短時間でも確実に力がつく指導を心がけています。また、かるたやダーツを使って、その日の課題を選ぶなど楽しみながら、知識と技術を身につけられるように工夫しています。

当教室は完全な個人指導のため、生徒同士が顔を合わせる機会がほとんどありません。そのため、年に一度お楽しみ会を開催し、生徒が交流できる場も設けています。

二〇二六年三月、保護者から「昇級の仕組みはないのですか」と尋ねられたことをきっかけに、日本武道館発行の月刊「書写書道」を知り、希望者が出品することになりました。昇級できたことを知って全身で喜びを表す子、昇級できずに肩を落としながらも「次は頑張る」と話す子。このような子どもたちの姿を目にすると、結果の良し悪しだけでなく「継続して挑戦する心」が少しずつ育っていると感じます。

書道の専門家として活動しているわけではありませんが、多くの方とのご縁に恵まれ、今では口コミで三十名近くが通ってくれる教室になりました。「書き順で私だけ正解だった」「都道府県のテストで満点だった」と報告してくれる誇らしげな笑顔。以前の自分の字を見て「前はこんな変な字を書いてたんや」と照れ笑いする愛おしい笑顔。みんなの笑顔が私の宝物です。

月刊「書写書道」や自作教材を活用しながら、硬筆とひらがなを大切にし、一人ひとりと向き合い、個々の力を伸ばす指導を心がけていきます。これからも「きれいな文字は、一生の宝物」を合言葉にみなで稽古に励んでいきたいと思います。

綾川駅前書写教室　髙免瑞穂

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。



書くことの楽しさ

広島県熊野町立熊野第二小学校五年　田邉（たなべ）　華蓮（かれん）



私は小学二年生の時、友達にさそわれたことがきっかけで書道教室に通い始めました。それまでの私は、字を書くことがあまり得意ではありませんでした。最初の頃は頭の中でイメージした通りに字が書けず、たくさんくやしい思いをしました。それでも先生は「あと一枚、あと一枚」と最後まで熱心に指導してくださり、書き抜いた時にはたくさんほめてくださいます。お手本を見ながら何十枚もくり返し書いて、自分がなっとくするまで練習します。そうして練習を重ねるうちに、だんだんと字を書くことが楽しいと思えるようになりました。

書道を習って良かったことは、字が上手く書けるようになったことと、自分の字に自信がついたことです。学校の友達から「すごいね」「上手！」とほめてもらうと、すごくうれしいです。クラスの代表として文字を書く場面では「やってみようかな」と挑戦しようと思うことが増えてきました。

今、私がんばっていることは、字に「強弱をつける」ことと、「名前をていねいに書く」ことです。線の太さがすべて同じになってしまわないように太い部分と細い部分を意識して書き分けられるようになりたいです。また、一生書き続ける大切な自分の名前を、六年生になるまでにもっといねいに書けるようにがんばりたいです。

最初は字を書くことが苦手でしたが、今では字を書くことが大好きです。こうして書道が好きになれたのは、時にはきびしくも温かい高下先生と、持ち帰った作品をたくさんほめてくれ、いつも支えてくれる家族のおかげです。これからももっときれいな字が書けるように大好きな書道を続けていきたいです。

私と書写書道　第283回



「いつ、誰が見てもきれいな字」が書きたいです。

岐阜県各務原市立鵜沼第二小学校六年　井上（いのうえ）　友里（ゆり）



私が習字を習い始めたのは、幼稚園（ようちえん）の年長の頃でした。自分で文字が「読める」「書ける」ようになったことがうれしくて、次は「もっときれいに書けるようになりたい」と強く思ったことがきっかけです。実際に教室の体験に行ってみると、お兄さんやお姉さんたちが楽しそうに筆を使って文字を書いているのを見て、「私もやってみたい！」と思い、習い始めました。

最初はとても緊張したのを覚えています。しかし、毎週通ううちに先生がいつも優しく、丁寧（ていねい）に筆の使い方を教えてくれたので、だんだんと緊張もほぐれていきました。自分の字が少しずつ上手になっていくのが分かり、毎週教室に通うのが楽しみになっていきました。

書道を続けているうち、書道教室のコンクールや学校の課題、夏休みの公募展などに出した作品が、何度か賞に選ばれて展示されることがありました。自分の名前が書かれた立派な賞状をもらった時は、胸がいっぱいになり、本当にうれしかったです。がんばって練習してよかったと心から思いました。

中学校へ進学すると、今よりもっと難しい漢字が増えてくるので、今のうちに文字のバランスや、とめ・はね・はらいを大切に、これまで以上に気持ちを込めて一字一字を丁寧に書いていきたいです。そして、硬筆も毛筆も今よりさらにきれいな文字が書けるように、毎回の練習に集中して取り組みます。書道教室の時だけでなく、普段の学校の授業ノートや宿題も、誰が見てもきれいな字だと思ってもらえるように、常に意識して努力を続けていきたいです。